

## News Release

2016年1月28日

### 曙ブレーキ工業、「省エネ大賞 審査委員会特別賞」を受賞

曙ブレーキ工業株式会社(代表取締役社長:信元久隆 本店:東京都中央区 本社:埼玉県羽生市)は、一般財団法人省エネルギーセンター主催(経済産業省後援)の「省エネ大賞(省エネ事例部門)」において、「業務用ビルにおけるコージェネレーションシステムの最大限効率的な活用への取り組み」が審査委員会特別賞を受賞したことを発表しました。表彰式は1月27日(水)に東京ビッグサイトで行われ、当社を代表して環境部より増岡賢八が出席し、表彰されました。



表彰式の様子



曙ブレーキ工業本社ビル(埼玉県羽生市)

「省エネ大賞」は、国内において省エネルギーを推進している事業者および省エネルギー性に優れた製品を開発した事業者の活動を表彰することにより、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進、省エネルギー産業の発展および省エネルギー型社会の構築に寄与することを目的としています。

今回の受賞はakebonoの本社機能と開発機能を有する大規模ビル(埼玉県羽生市)においてコージェネレーションの高効率化を実現した事例が評価されました。同事業所では、使用エネルギー量を2020年までに2005年比25%削減する目標を立て、省エネ活動を実施しています。

主な取り組みは以下の通りです。

- ・ガスエンジン発電機と廃ガスボイラー設置に伴い、蒸気駆動のバイナリー発電機とコンプレッサーを導入し、ガスエンジン発電機からの廃熱(蒸気)をバイナリー発電によって徹底利用することで発電効率の向上を図る
- ・太陽熱温水設備や太陽光発電などの再生エネルギーの活用
- ・屋上遮熱塗料による日射負荷低減
- ・BEMS(ビルエネルギー管理システム)を活用したエネルギーの見える化
- ・空調機の高効率化
- ・照明の高効率化

これらの取り組みにより、エネルギー使用量は、導入前と比べて、原油換算で 1,034 キロリットル／年、CO<sub>2</sub>換算で 1,603 トン／年の削減効果を上げています。今回の「省エネ大賞 審査委員会特別賞」受賞は、これらの省エネ活動が評価されたものです。

akebono は企業としての社会的責任を果たすため、地球環境問題を経営の最重要課題のひとつと捉え、より総合的にグローバルな視点で環境保全活動に取り組んでいます。